広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

[広島県感染症予防研究調査会]
（平成１７年１月解析分）

１　疾患別定点情報

定点把握（週報）五類感染症　　平成16年１2月分(平成16年11月29日～平成17年1月2日：5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
1	インフルエンザ	62	0.10	2.78	⬆	12	ヘルパンギーナ	49	0.13	0.04	⇧
2	ＲＳウイルス感染症	344	0.92	－	⬆	13	麻しん	0	0.00	0.02	
3	咽頭結膜熱	90	0.24	0.17	⇧	14	流行性耳下腺炎	459	1.22	0.80	⇧
4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	320	0.85	1.18	⇧	15	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.06	
5	感染性胃腸炎	4,695	12.52	13.98	⬆	16	流行性角結膜炎	95	0.95	1.08	⇧
6	水痘	803	2.14	2.57	⬆	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
7	手足口病	109	0.29	0.39	⇨	18	無菌性髄膜炎	4	0.04	0.06	
8	伝染性紅斑	33	0.09	0.17	⇨	19	マイコプラズマ肺炎	44	0.42	0.23	⬈
9	突発性発しん	267	0.71	0.72	⬈	20	クラミジア肺炎	0	－	0.00	
10	百日咳	27	0.07	0.01	⬆	21	成人麻疹	0	－	0.00	
11	風しん	0	0.00	0.01							

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

急増減	増減	微増減	横ばい
⬆	⬈	⇧	⇨
⬇	⬊	⇩	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし（発生件数少数のものを含む）

※定点について
　定点情報は，定点把握対象の五類感染症（週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患）について，県内 188 の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～14	15，16	22～25	17～21，26～28	
定点数	45	75	20	27	21	188

定点把握（月報）五類感染症　　平成16年12月分（12月1日～12月31日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	40	1.48	2.16	⇨	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	98	4.67	4.19	⤵
23	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.44	0.56	⇨	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	85	4.05	2.47	⤴
24	尖圭コンジローマ	10	0.37	0.43	⬇	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	7	0.33	0.39	
25	淋菌感染症	12	0.44	0.82	⤵						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

○ インフルエンザ　急増（11月9件⇒12月62件）
○ ＲＳウイルス感染症　急増（11月61件⇒12月344件）
○ 感染性胃腸炎　急増（11月1,553件⇒12月4,695件）
○ 水痘　急増（11月323件⇒12月803件）
○ 百日咳　急増（11月11件⇒12月27件）

2　一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

○ 一類感染症　発生なし
○ 二類感染症　2件発生【細菌性赤痢　2件（福山市保健所管内1件，芸北地域保健所管内1件）】
○ 三類感染症　2件発生【腸管出血性大腸菌感染症｛O157　1件（東広島地域保健所管内）
O26 1件(広島地域保健所管内）｝】
○ 四類感染症　5件発生【つつが虫病　3件（広島市保健所管内2件，広島地域保健所管内1件）】
オウム病　1件（広島地域保健所管内），
レジオネラ症　1件（広島市保健所管内）
○ 全数把握五類感染症　6件発生【梅毒　1件（広島市保健所管内）
急性ウイルス性肝炎Ｂ型　1件（広島市保健所管内）
後天性免疫不全症候群　3件（広島市保健所管内）】

3　一般情報

○ 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は冬場に多発する疾患で，散発下痢症や食中毒の集団発生を引き起こす疾病で，中には，食物等を介してニ次感染を起こす場合がしばしば見られる。特に高齢者や乳幼児が発症すると，脱水症状により重篤になる場合がある。

①病 原 体：カンピロバクター属・サルモネラ属・腸管病原性大腸菌・腸炎ビブリオ等の細菌やロタウイルス・ノロウイルス・エンテロウイルス・アデノウイルス等のウイルス
②感染経路：食品，水を介して経口感染やヒト，ペットからの接触感染による場合もある。
③潜伏期間：病原体により異なるが，腸炎ビブリオでは，6時間～12時間，サルモネラでは12時間～36時間，腸管病原性大腸菌では，12時間～７2時間，カンピロバクターでは，2日～11日，ウイルスでは1日～3日と言われている。
④症　　状：感染した原因病原体によるが，主症状は，下痢，嘔吐，腹痛，発熱である。
⑤治　　療：原因病原体が不明の初期段階では，対症療法を優先し，症状の重症度と患者の状況に応じ，抗菌薬の適用を判断する。

○ ノロウイルスによる感染性胃腸炎

本年に入って，ノロウイルスが原因と思われる感染性胃腸炎が，老人養護施設等で多発しております。原因は食品や水を介して経口感染により発症します。特に食品では，二枚貝や生鮮魚介類，野菜サラダ，果物，ケーキ，サンドイッチ，和え物など加熱しないで食べる食品が原因とされております。食品を取り扱う場合に手洗いが不十分な場合，手指から食品を汚染し感染します。

また，ヒトに感染した場合，腸管内でウイルスが増殖し，吐物や糞便の中に多量に排出されますから，これらの取り扱いや処理を衛生的に行わなかった場合，ニ次感染を引き起こす場合がしばしばあります。吐物や糞便を取り扱う場合には，ビニール手袋等をして処理し，手洗い等を十分行なうことにより，防止することが可能です。吐物があった場所，あるいは，手指や糞便で汚染された場所は，台所用の漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）で消毒することが重要です。

通常，健康なヒトでは，3日程度で回復しますが，ウイルスは，１～2週間程度ヒトの便から排泄されると言われております。

一般的に予後は良好ですが，高齢者や乳幼児の場合は，下痢による脱水症状を起こし，重篤になる場合がありますから注意が必要です。

○ インフルエンザ

本年度もインフルエンザシーズンに入っております。現在のところ県内で多発している状況にはありませんが，　今後，気温が低下し，空気が乾燥してくるとインフルエンザが急激に流行することも考えられますので，まだインフルエンザの予防接種を実施されていない方は，早急に実施してインフルエンザ予防をしましょう。

また，外出先から帰った場合は，次の予防対策でインフルエンザにかかるのを予防しましょう。

【インフルエンザの予防対策】

①外出時には，マスクを着用し人ごみはなるべく避ける。
②外出先から帰宅後は，うがい，手洗いを励行する。
③食事は栄養バランスを考えたメニューを心がける。
④インフルエンザウイルスは，乾燥に強いことから，室内の湿度をある程度保つことで感染防止対策になる。